

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 17 日現在

機関番号：40122
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2007～2010
 課題番号：19700514
 研究課題名（和文） グローバル化するバスケットボール界のスポーツ労働移住
 研究課題名（英文） Sports Labor Migration of Global Basketball

研究代表者
 千葉 直樹（CHIBA NAOKI）
 北翔大学短期大学部・人間総合学科・准教授
 研究者番号：20389662

研究成果の概要（和文）：ほとんどのプロ・バスケットボール・リーグにおいて、過去十年間に外国人選手の比率が増加傾向にあった。特にNBAに所属する外国人選手の出身地域から、世界システム論を応用して、グローバルなバスケットボール界の選手移籍の傾向を説明することができた。四つのプロ・バスケットボール・リーグの代表者とのインタビューを通して、全ての代表者はバスケットボールがグローバルなスポーツになったことを認めていた。

研究成果の概要（英文）：In almost professional basketball leagues, the rate of foreign players in each league increased during this 10 years. In particular, we can apply world-system theory for explaining tendencies of player migrations based on countries of foreign players in the NBA. Every presidents in each league understood that basketball became a global sport.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	400,000	120,000	520,000
総計	2,100,000	480,000	2,580,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：スポーツ社会学

1. 研究開始当初の背景

本研究では、以下の研究設問（research questions）を明らかにするために調査を行う。

(1) バスケットボール界におけるグローバル

化の影響とは何か。(2) トップレベルのアメリカ人バスケットボール選手は、どのような目的や法則性を持って海外移籍を行う傾向にあるのか。

最初の調査設問を明らかにするためには、過去 10 年間における一流選手の海外移籍の状況を調べる必要がある。具体的には、NBA (National Basketball Association) というアメリカのプロ・バスケットボール・リーグ、ヨーロッパのユーロ・リーグ (13 カ国から 24 チームが参加する国境を越えたプロリーグ)、オーストラリアのプロ・バスケットボール・リーグ (NBL)、日本のエリート・バスケットボール・リーグ (JBL と bj リーグ) に所属する外国人選手数の推移や出身国の変化を調べる。この期間に各国に外国人選手が増えていたとするならば、バスケットボール界にグローバル化が進んでいると言えるだろう。

さらに、NBA、ユーロ・リーグ、NBL は、複数の国に本拠地を持つチームから構成される、国境を越えたプロ・バスケットボール・リーグである。こうしたグローバルなリーグの存在自体がバスケットボールのグローバル化を証明していると言えるだろう。本研究では、これら三つのプロ・バスケットボール・リーグのコミッショナー、最高経営責任者 (CEO)、ジェネラル・マネージャーに聞き取り調査を行い、リーグの運営形態 (フランチャイズ制、テレビ放映権などによる収益の分配方法、各チームの財務状況)、国家間のバスケットボール文化の違いについて分析を行い、国境を越えたプロバスケットボールの特徴を明らかにする。

二つ目の調査設問を明らかにするために、各国プロ・バスケットボール・リーグの外国人選手数の推移や、選手の出身国などの情報から、トップレベルのバスケットボール選手の海外移籍の傾向を調べる。さらに、JBL に所属する外国人選手に、インタビュー調査を行う。選手へのインタビューを通して、相対的に競技レベルの低い日本のリーグに、な

ぜ外国出身選手が移籍するのか明らかにできるだろう。

本研究では、ウォーラーステイン (1997) の世界システム論を参考にして、グローバルなバスケットボール・リーグ市場における海外移籍の法則性を明らかにする (I. ウォーラーステイン; 川北稔訳「史的システムとしての資本主義」岩波書店、1997 年)。つまり、世界最高峰のプロ・バスケットボール・リーグである NBA を中心にして、ユーロ・リーグを準周辺、アジアのプロリーグや NBL (オーストラリアのプロリーグ) を周辺と想定することで、海外移籍の傾向を説明することができるだろう。さらに、日本にいる外国出身選手の移住動機についてインタビュー調査を行うことで、理論的な枠組みを裏打ちする貴重なデータを取ることができるだろう。

2. 研究の目的

この調査では、NBA、ユーロ・リーグ (ヨーロッパの国境を越えたリーグ)、NBL (オーストラリアのプロバスケットリーグ)、日本のトップリーグ (JBL と bj リーグ) に焦点をあて、過去 10 年間にわたる一流選手の海外移籍の傾向を調べた。さらに、本研究では、海外のプロ・バスケットボール・リーグのコミッショナー、ジェネラル・マネージャー、選手に聞き取り調査を行い、リーグの運営形態 (フランチャイズ制、テレビ放映権などによる収益の分配方法、各チームの財務状況)、アメリカ人選手の移住動機、国家間のバスケットボール文化の違いについて分析を行い、国境を越えたプロバスケットボールの特徴を明らかにする。

本研究の目的は、(1)バスケットボール界におけるグローバル化の影響を明らかにすること、(2)プロバスケットボール選手の海外移籍の傾向を世界システム論に基づき説明すること、(3)NBA、ユーロ・リーグ、NBL とい

う国境を越えたプロ・バスケットボール・リーグに共通する特徴を明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1)初年度は、過去10年間における日本バスケットボールリーグ（JBL）とbjリーグに所属した外国人選手数の推移を調べた。

(2)2000年と2007年の「NBA選手名鑑」を購入し、外国人選手数の推移について分析を行った。さらに、NBAのグローバルな経営形態について調べるために、2008年2月末に現地視察を行い、NBAのコミッショナー、デビッド・スターン氏に1時間程度のインタビュー調査を行った。質問内容は、NBAのグローバルな経営戦略、各チームの財務状況、テレビ放映権の問題、国境を越えたリーグ運営の問題点、外国人選手数の増加についてである。

(3)2008年にユーロ・リーグのトップチームに在籍する外国人選手の数や出身国についての選手名鑑を購入し、分析を行った。2009年3月にユーロ・リーグの試合を視察するためにスペインのバルセロナとマドリッドを訪問し、国境を越えたリーグの運営形態について情報収集を行った。その時に、ユーロ・リーグの最高経営責任者（CEO）であったジョージ・ベルトメフ氏に1時間程度のインタビュー調査を行った。特に各国のバスケットボールの普及状況や選手育成の方針、外国人選手の国内選手に対する比率などについて関係者から聞き取りを行った。またFCバルセロナのアメリカ人選手に対して移住動機に関するインタビュー調査を行った。

(4)2010年2月にオーストラリアのシドニーとウロンゴンを訪問し、NBLのプレーオフ準決勝を視察した。その時に、NBLジェネラル・マネージャーのチャック・ハーミソン氏にNBLのグローバル化についてインタ

ビューを行った。さらに、2名のアメリカ人選手に移住動機に関するインタビュー調査を各1時間程度行った。

(5)2009年以降、JBLに所属した4名のアメリカ人選手に対して、各1時間程度のインタビュー調査を行った。質問内容は、主に日本への移住動機、日米のバスケットボール文化の違いなどについてであった。さらに、bjリーグ・チェアマンの河内敏光氏に、bjリーグの理念・各チームの財務状況、JBLとbjリーグの統合問題についてインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

(1)JBLとbjリーグにおける外国出身選手の比率を調べた。JBLに所属した外国出身選手の比率は1997-8年シーズンの24%（38名）から、2007-8年シーズンの18%（20名）に減少した。一方で、bjリーグでは、2005-6年シーズンの32%（22名）から2007-8年シーズンの39%（47名）へと外国人選手の比率と数が増加していた（図1）。こうした違いは、両リーグの外国人枠の違いと考え方を反映していた。

リーグ名	チーム数	外国人選手枠	外国人選手率(アメリカ人の比率)
JBL (2007-8)	8	2⇒1	18%(85.7%)
bjリーグ (2007-8)	16	0⇒4	39%(84%)
ユーロ・リーグ (2008-9)	24	0	49.3%(44.6%)
NBL (2009-10)	8	2	25.2%(55.5%)
NBA (2007-8)	32	0	20.6%(79.4%)

図1. バスケットボールリーグの外国人選手率

また、bjリーグの誕生は、日本における一流バスケットボール選手の需要を高める結果となった。bjリーグの運営形態はNBAを模倣した内容であり、外国人枠を規定し

ていないことから、グローバル化に対応した内容であるといえる。したがって、b j リーグの誕生は、日本バスケットボール界のグローバル化の動きを体現していると考えられる。

(2)デビット・スターンは、1984年にNBAのコミッショナーに就任以降、23チーム中17チームが赤字経営に陥っていた状態から、2008年に30チーム中20チームが黒字経営になるところまで経営を改善させた。各チームの経営が改善された理由は、①全てのアリーナの新築・改築による収入の増加、②テレビ放映権料の増加、③スポーツ・マーケティングによるスポンサー収入の増加という三つの要因から説明された。

スターン氏は、80名上の外国人選手を抱え、NBAの試合が215カ国で放送されていることからバスケットボールとNBAがグローバル化していることを認めた。さらに、NBAは成長し続けるために多国籍企業の戦略を学び、経営戦略を巧みに変化させた。スターン氏は、NBAのグローバル化を肯定的にとらえ、バスケットボールの普及や発展を後押し、成長させていると考えていた。

(3)2000年以降のNBA選手に占める外国人選手の比率を分析した。NBA各チームに登録された外国出身選手数は、2000-1年シーズンの58名(11.5%)から2007-8年シーズンの109名(20.6%)へと倍増した(図1)。この結果は、1980年代に数名の外国出身者しかいなかったことを考慮すると、飛躍的な増加といえる。特に、2000年以降、ヨーロッパと汎アメリカ地域から、NBA選手が倍増していることが明らかになった。こうした選手移籍の傾向は、世界システム論をバスケットボール界にあてはめることで説明することができる。

図2に示したように、北米地域はバスケット

ボール界の中心であり、ヨーロッパは準周辺、中南米とアフリカは周辺、アジア・オセアニア地区は外部世界として位置づけられる。つまり、世界中のエリート選手がアメリカの大学やNBAを目指して集まる一方で、NBA

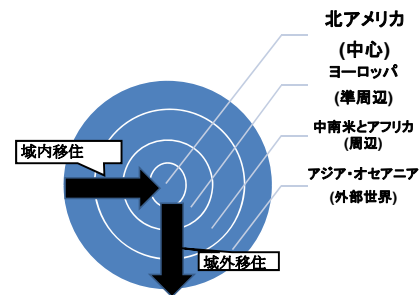


図2. グローバルなバスケットボール界の選手移籍の構造

チームと契約できなかったアメリカ人選手がヨーロッパ、アジア、オセアニアに移籍する傾向がある。以上の結果から、NBA選手はグローバル化の影響を受けて多国籍化してきたことが明らかになった。

(4)ユーロ・リーグは、ヨーロッパ13カ国の国内リーグ上位24チームによって構成される国境を越えたバスケットボール・リーグである。1958年から国際バスケットボール連盟(FIBA)によって主催されてきたが、運営形態に不満を持っていたクラブが中心になりユーロ・リーグを発足させた。2000年から始まり、1試合当たりの平均観客数は5000名程度であった。ユーロ・リーグ最高経営責任者(CEO)のベルトメフ氏は、バスケットボールがグローバルスポーツになってきたことを認めた。その理由は、NBAには80名以上の外国人選手がプレーしており、250カ国以上でテレビ放送がされ、ユーロ・リーグも160カ国でテレビ放送がされていたからであった。またユーロ・リーグのチームは、毎年アメリカに遠征し、NBAチームと対戦しており、最近では中国でも試合を行ったと述べて

いた。ベルトメフ氏は、図2に示されたグローバルなバスケットボール界の権力構造に納得しており、ジノ・ベリ（サンアントニオ・スパーズ）のような南米の選手がユーロ・リーグで活躍してからNBAに移籍する傾向を指摘した。

ユーロ・リーグの収入は、テレビ放映権で70%、スポンサー料金で20%、イベント収入が10%であった。ユーロ・リーグのリーグ戦では、ホームチームが試合の運営を行い入場料収入を得るが、ファイナル4ではリーグが試合の運営を行い入場料収入を得る。テレビ放映権料の70%は、各クラブに分配され、残りの30%がユーロ・リーグの収入になる。

各クラブの運営形態は、大金持ちのオーナーが経営するパナシナイコスやオリンピアコス（ギリシャ）、サッカークラブを母体にするFCバルセロナやレアル・マドリッド、TAUのような企業に後援されたクラブなど様々であった。

ヨーロッパのクラブは、選手よりもチームを重視したチーム作りをしていた。NBAでは、能力の高い選手を中心にチームを作るが、ユーロ・リーグでは、100年以上の伝統を持つクラブのコンセプトに基づいてチームを作る。つまり、1対1を中心にしたバスケットではなく、チーム・プレーを中心にしたチーム作りがなされている。

ユーロ・リーグでは、外国人選手枠が規定されておらず、何人でも外国人選手が出場することができる。したがって、全選手に占める外国人選手の比率は、2008-9年シーズンに49.3%であり、その内、44.6%がアメリカ人選手によって構成されていた（図1）。

(5)NBLのジェネラル・マネージャー、ハーミソン氏は、アメリカ出身でオーストラリア国籍を取得した元選手であり、現在ではオーストラリア人としての国民アイデンティテ

ィを保持していた。NBLはニュージーランドのブレイカーズ1チームを含む国境を越えたリーグであった。以前はシンガポールのチームも加えて、11チームで活動していたが、海外への移動コストの問題や、財政危機に伴うチームの消滅という事態に直面した。またウロンゴン・ホークスに所属した2名のアメリカ人選手に、移住動機とバスケットボール文化の違いについてインタビュー調査を行った。2名のアメリカ人選手は、良い契約条件とオーストラリアのライフスタイルに憧れて移籍してきたことが明らかになった。

(6)日本のJBLに所属した4名のアメリカ人バスケットボール選手へのインタビュー調査から、全ての選手が母国よりも高い給与で安定した条件の契約を重視して日本のチームを選んだことが分かった。彼らの移住傾向は、新古典派経済理論に基づき説明できることが明らかになった。新古典派経済理論では、①労働者の国際移住は、国家間にある賃金格差に起因する、②賃金格差の消失は労働者の移動を終わらせる。移住はそのような格差のないところにおいて起こらない、と想定している。NBAのチームと契約できないアメリカ人選手は、将来の生活に備えてヨーロッパやアジアのチームと契約を交わす。NBAのマイナーリーグと比べて、ヨーロッパとアジアのリーグは多額の報酬を提供することから、彼らの移籍はリーグ間にある賃金格差が原因になっている。またプロバスケットボール選手は、ある種の高度熟練労働者であり、非熟練労働者の移住とは異なる点がある。

(7)bjリーグコミッショナー、河内氏へのインタビュー調査を行い、JBLとbjリーグの統合の見通しやbjリーグの理念と各チームの収益の状況について聞き取りを行った。2013年に向けたリーグ統合は、現実的には難しく、交流戦などを行うことはあつて

も、完全に統合したプロリーグになることは難しいという見解であった。bjリーグは、設立時から「グローバル&コミュニティ」を理念の一つに掲げ、地域密着したチーム運営とグローバルなバスケットボール文化の発信を狙いにしてきた。各チームの独特の演出方法は、グローバルなチーム運営という理念に基づき行われてきたことを確認した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

千葉直樹「越境するスポーツ—1980年代以降のNBAのグローバル戦略」*体育の科学*、査読無、Vol. 60, No.5、2010年、299-302頁

[学会発表] (計 3 件)

- Chiba, Naoki, The Globalization of Basketball and Reorganization of Elite Basketball in Japan, ISSA(国際スポーツ社会学会), 2008 5th World Congress, 2008年7月、in Kyoto University.
- 千葉直樹、1980年代以降のNBAのグローバル戦略と経営、日本スポーツ社会学会第18回大会、2009年3月、関西大学
- Chiba, Naoki, Migratory motivations of American Professional Basketball Players in the world, NASSS(北米スポーツ社会学会), 2010年11月、サンディエゴ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

千葉 直樹 (Chiba Naoki)

北翔大学短期大学部・人間総合学科・准教授
研究者番号：20389662